

第102回 二 科 展

NIKA

102ND NIKA ART EXHIBITION

被災地生徒作品特別展示

大作への挑戦 熊本・ふるさとの復興、そして発展を



熊本県立熊本北高等学校

会場：国立新美術館
会期：2017年9月6日～9月18日

大作への挑戦 ― 熊本・ふるさとの復興、そして発展を ― 制作に思う

熊本県立熊本北高等学校 校長 土田圭司

平成28年熊本地震から1年が過ぎ、熊本市内でも各所で家屋やビルが解体され更地が目立つようになりました。屋根を覆うブルーシートも次第に減ってきました。復旧復興は少しずつ進んでいます。

昨年は4月14日に前震、そして16日に本震と二度の震度7の地震が起きました。余震も頻発し、今も止みません。県内各地で甚大な被害があり、本校も被災を免れませんでした。本震後は、体育館に多数の方々が避難され、グラウンドは駐車場となりました。休校は一月近く続き、行事の変更や中止もやむを得ませんでしたが、再開後には朗報もありました。お礼状や感謝状がたくさん届いて、多くの生徒たちが自宅近隣の避難所などでボランティア活動をしてくれたことが分かったのです。本校の体育館で活動してくれていた生徒たちもおります。おそらく各校の多くの高校生が同様の活動を自発的に選んだことと思い、高校生のボランティア精神に頭の下がる思いでした。

本校の校舎の補修工事は現在も続いています。昇降口に生じた段差の補修に目途が立ってきた年末に、二科会から大作への挑戦 ― 熊本・ふるさとの復興、そして発展を― 制作の話をいただきました。年が明けると日程も3月18日と19日に決定するなど少しずつ具体化していきます。当日は、県内外の幾人もの二科会会員の皆様に、本校の美術部を主体とする生徒たちの制作を導いていただきました。100号のキャンバス5枚を分担しての制作です。色彩や構図などアドバイスしてもらいながら一つ一つの画面ができていきます。ときおり5枚を一体化させては修正箇所が検討され、また一つ一つに分けて練り上げていきます。完成した画面には、雄大な阿蘇の風景と熊本城が現出していました。力強さと安らぎを感じさせる画面です。二科会の皆様の温かいご指導に心から感謝申し上げます。

冒頭述べました更地にも近いうちに新しい家屋やビルが建ち、ブルーシートもそう遠くない日になくなるでしょう。露出した阿蘇の山肌もやがては草木に覆われていくでしょう。ただ熊本城の修復には20年がかかると思います。完全な復旧復興にはまだまだ時間を要しますが、今後、着実に進んでいくことを切に願います。この「大作への挑戦」制作がその後押しとなりますことを。

生徒とともに阿蘇の山々を思う

熊本県立熊本北高等学校 美術担当 佃 千世

今年の春は少し遅い足取りでやってきていましたが、あの二日間は温かい先生方のまなざしに、ひととき春本番のようでした。

昨年は、熊本地震の後、一ヶ月間の休校を余儀なくされ、体育大会（パネル制作）も熊本県高等学校総合文化祭も高校生写生大会も中止となり、美術部部員の活躍の場がほとんどない一年間でした。そんななか、二科会の木戸先生から今回の大作への挑戦 ― 熊本・ふるさとの復興、そして発展を ― のお話をいただき、こんなすばらしい機会を得ることができたのは、生徒たちはもちろん、私自身にとっても貴重な経験となりました。

初めての大画面の作品に挑戦した生徒たちは、最初のうちこそおそおそと筆をのせていましたが、先生方の丁寧なご指導と心と声掛けで、やがてたくさんの色をダイナミックな画面に楽しそうにのせだしました。わずか二日間でしたが、濃密な制作時間の後に出来上がった大きな作品を前に、生徒たちはそれぞれ心豊かに感性の世界に浸っていたようでした。

最後に、西先生の発案で「若者たち」を全員がアカペラで合唱するというサプライズもあり、卒業していく三年生にとってはより感慨深い経験となりました。感謝の言葉しかありません。本当にありがとうございました。

心に残る「大作への挑戦」

公益社団法人 二科会

2016年4月14日・16日、熊本を襲った大地震は第100回記念二科巡回展熊本展の最中でした。公益社団法人二科会は、6年前の東日本大震災の義援活動を5年間続けて参りましたが、昨年4月の熊本地震に向けても、引き続き義援活動を行う事を決めました。同年6月、被災地を訪れ、義援活動の方法を検討した結果、今年3月18日・19日に行う事を決定しました。内容は熊本県立熊本北高等学校美術部員を中心に、約30名の参加を受け、「大作への挑戦―熊本・ふるさとの復興、そして発展を―」を制作テーマに掲げ、本格的な布張りのキャンバス100号5枚にアクリル絵の具を使用してのものです。生徒たちはエスキース（下描き）を参考にしながら二科会スタッフの指導を受け、ふるさとへの熱い思いを意欲的に描き込んでいきました。2日目の午後、5枚のキャンバスを横に繋ぐと、そこには雄大で、生き生きとした阿蘇大地の風景、熊本城の勇姿・・・がありました。高校生、二科会スタッフ共々、描き上げた喜び、感動はこの作品と共にいつまでも心に残るものと思っています。

終わりにりましたが、この度の熊本地震義援活動に際しましては、被災者であるにも関わらず、準備の段階から献身的なご協力を頂いた二科熊本支部同人の方々に心から感謝の意を表します。

(文責 理事 西 健吉)



▲作品の前で田中理事長を囲んで記念撮影



▲オープニングセレモニー（テープカット）



▲熊本北高等学校正門前にて 二科会作品制作指導スタッフ



▲二科ショップ（チャリティー作品コーナー）

第102回二科美術展覧会は9月6日のオープンセレモニーで開幕し、大勢の来館者を迎えることができました。本年6回目となった被災地生徒の共同制作は熊本北高等学校の生徒が熊本地震のからの復興を願って描いた大作が展示されて観覧者に深い感銘を与えました。また、熊本日日新聞では(9月14日付)「復興後の熊本 力強く」と社会面に記事が紹介されるなど、大きな反響を呼びました。そして、4部門(絵画・彫刻・デザイン・写真)の会員によるチャリティーコーナーでは、被災地支援の義援活動や、絵葉書を「絆通信」として活用していただくなど、東日本大震災、熊本地震の被災地支援活動を行いました。

熊本県立熊本北高等学校 制作 作品サイズ：1620cm×650cm / 作品制作期間：2017年3月18日～19日



熊本県立熊本北高等学校

学 校 長：土 田 圭 司

美術担当講師：佃 千 世

参 加 者：1日目16名

2日目20名

3年生（6名）堀 愛歌・大橋安佳里・中園奏子・免田優羽香・小城乃梨花・田上夏海

2年生（7名）池田真美・蔵本真優・三輪あかり・田河晴菜・牧野ななみ・本郷瑛梨・田島萌華

1年生（11名）伊集院万央・柿原理沙・溝部真和美・生田万葉・柳田夏希・櫛川大雅・大下真晴・東 花音・福田千尋・内川帆乃香・小野夢叶

〈二科会 制作指導〉

西 健吉・宮村 長・木戸征郎・馬場一郎・田浦哲也・塙 珠世



▲作品(1日目制作)の前で記念撮影



▲完成作品(2日目制作)の前で記念撮影



※制作指導を受けた後、絵の具の準備→下絵→彩色へと入る



制作 1 日目

制作 2 日目



※昨日に引き続き完成に向けて作品制作



▲作品制作2日目(5枚のキャンバスを立てかけて左右の繋がりを確認)



▲作品制作1日目



▲細部の描き込みで完成間近



▲太陽は北高校章にするアイデアを採用



第102回 二科展 被災地生徒作品特別展示

二科会 熊本県立熊本北高等学校作品制作指導
西 健吉・宮村 長・木戸征郎・馬場一郎
田浦哲也・塙 珠世

公益社団法人 二科会

〒160-0022 東京都新宿区新宿 4-3-15
レイフラット新宿 501 号室
TEL.03-3354-6646 FAX.03-3354-4768
メールアドレス nika@nika.or.jp
公式ホームページ <http://www.nika.or.jp>
